

山から牛首を経て登山し、歸路は能美郡別宮から小松に出た紀行である。天保十二年その末に、金子有斐の白山圖解の概要を録して一冊として居る。

シラヤマキコウシヨウ 白山記攷證 三冊。

森田平次著。白山比咩神社蔵の白山記の文を、文献と實地とに就いて考證注釋したもので、明治十二年愛媛春樹の序文がある。今白山比咩神社叢書第一輯に收められてゐる。

シラヤマキユウシャインコウ 白山舊社員考 一冊。森田平次著。白山比咩神社の神職・坊官の來歴を、社傳の舊記實録に徴して考證したもの。白山神社考の餘考であるといふ。明治三十八年訂正。

シラヤマキンコウ 白山金坑 白山の目附谷東岸に金坑があつたといはれる。金子有斐の白山遊覽圖記に、金鑛山は鑛、瀑の北に在つて、幽壑深邃人稀に至る所である。老翁獨語にいふ。永祿四年周防の人口三之輔といふ者、尾添村の勘助及び瀬戸村の長太夫と開坑探金を謀つたが、八年五月地震の爲に崩れ、長太夫及び役夫十餘人厭死し、今絶壁となつたと記されてゐる。

シラヤマクシヨノシヨウシン 白山九所小神 白山記によれば、不動天和佐谷・岩神馬場谷・三戸明神・船岡平等寺・岩坂宮尾・弓ノ原井口。イ、精神白山・志津原明神・山内廣瀬・高峯能登鈴モスノ白山・佐那武大野庄・能生の白山越後とし、大永七年の託宣記によれば、不動天・和佐谷・精神勝軍地蔵・三戸明神十八講川原・岩坂宮尾木戸内・岩神馬場谷・白山小川・志津原明神・山内廣瀬・佐那武大野内宮。イ、越後能生白山・高倉能登洲ノミサキモスノ白山となつてゐる。いづれにしても珠洲岬の高倉と

雲津の白山を混同したのは訝しい。

シラヤマクニタマジンジャ 白山國玉神社

江沼郡四十九院に在つた。式内等舊社記に、『白山國玉神社。四十九院村鎮座。舊社也。』とある。今この地に白山神社がある。

シラヤマゴイン 白山五院 白山記に『白山五院柏野中宮末寺・温泉寺・極樂寺・小野坂・大聖寺。或八院之内有五院。余三院後建立云々。五院山代庄之内歟。』とある。柏野寺は今の柏野に在つた。温泉寺は山代にあつて、現に藥王寺と稱するものである。極樂寺の所在は、源平盛衰記に極樂林と稱するもので、極樂寺の部落に坊々谷といふ地あるは、その遺址であるといはれる。小野坂寺もまた源平盛衰記に小野寺林と記するものに當り、高尾に小野坂峠の名を存する。大聖寺は古書に往々大正寺に作り、今の大聖寺町なる城山に在つたといふ。

シラヤマゴゼン 白山御前 白山の山頂を御前とも大御前ともオホミサキともいひ、尾添側の先達は奥院といつてゐる。白山遊覽圖記にいふ。『於本美佐伎。後世轉爲大御前。土人訛曰於保牟奈伊志。按於本大也。美御國音相通。尊稱也。佐伎前也。御前曰神前。尊不取指斥。猶稱天子曰陛下也。』との祠殿に就いては、古く白山記に『加賀國石川郡味智郷有一名山。號曰白山。其山頂名禪定。住有德大明神。即號正一位白山妙理大菩薩。其本地十一面觀自在菩薩。建立一間一面寶殿。安置五尺金銅像。』と記し、寛政中の調書には、『大御前本社見付七尺、梁一丈二尺、總金具鍍金打、屋根長打葺。』とし、文化の越前國名蹟考には、『本地十一面觀音二體

有り。金佛なり。小さきは年代不知といふ。又奥州の秀衡造立ともいふ。古佛なり。大きなかたは近代青木紀伊守重治造立なり。本社は帝都のかたへ向ひ、王城の鬼門を守護なりといふ。』とある。↓ゴゼンダケ 御前岳。シラヤマコブソウ 白山古文藻 一冊。森田平次編。白山比咩神社に傳へる古文書を集めたものである。シラヤマゴモンチヨウ 白山御紋蝶 白山の頂上及び室平の岩間に潜伏する蝶類で、コキマヘヤガとトビイロヤガの二種がある。古來白山御紋蝶の名で著れてゐるが、白山のみに産するものではない。

シラヤマサンガジ 白山三箇寺 白山記に『三寺。那谷寺温泉榮谷』とある。源平盛衰記安元二年涌泉寺鬪争の段に、『別宮・佐羅中宮三社の衆徒。急ぎ下つて一つになる。岩本・金釧・下白山・三宮、奈谷寺・榮谷寺・宇谷寺、三寺四社の大衆も同意す。』と見えるから、三寺は白山本宮の末寺であつたのであらう。奈谷寺は那谷寺で、今も江沼郡那谷にあり、宇谷寺は温泉寺で同郡宇谷に在り、永享傳寫の白山記奥書には温泉護法寺とある。又榮谷寺は同郡榮谷に在つて、その寺跡を今寺の谷といふ。

シラヤマサンジヨゴンゲン 白山三所權現 白山の御前岳・大汝岳及び別山に鎮座する神靈を、神佛混淆の時代には、白山三所權現といふた。白山記に『其山頂名禪頂。住有德大明神。即號正一位白山妙理大菩薩。云々。北並時高峰。其頂住大明神。號高祖太男知。云々。南去數十里有高山。頂住大明神。號別山大行事。是大地神也。云々。此名

白山三御山御在所。』といふもの即ち是である。源平盛衰記卷廿九奏澄傳にも、『和尙靈感を仰ぎて白山の絶頂に攀登りけるに、十一面觀音現れ給へり。左の峰に登れば一の宰官人に逢へり。是妙理大菩薩の神務輔佐の眞首、名をば小白山別山大行事といふ。右の嶺に登れば一老翁あり。是妙理大菩薩の神務、靜謐啓沃輔弼なり。名をば大己貴といふ。是を白山の三所權現と申なり。』(取意)と見える。シラヤマサンボウ 白山三峰 越前誌に、『白山中央の峰を大御前といふ。南の峰を別山といふ。相去ること三里。北の峰を大己貴といふ。相距ること一里許。三峰共に草木なく巖石なり。大己貴より加州尾添村へ下ること九里八町。』とある。大己貴は太男知とも大汝とも、又越前側では越前地ともいふて、尾添から登る時は、先づこの峰に達する。故に尾添の先達は大汝を内陣といひ、峰の社(御前岳)を奥院といふが、牛首谷の先達は初に御前岳に詣でるから、大汝岳を奥院といつてゐる。但し前記の距離は過大である。

シラヤマシ 白山史 八冊。金子有斐著。石川郡鶴來から、尾添口を白山へ登る順路の神祠・名蹟・産物・傳説等を漢文で記し、所々の見取圖が添へられてゐる。著者が天明元年以降屢登山した結果に成つたのである。シラヤマジ 白山寺 ↓シラヤマヒメジンジャ 白山比咩神社(十)

シラヤマジ 白山寺 元祿の頃、白山山麓尾添村に居た寶代坊が、北賀天嶺白山寺澄隆と稱して、紀州高野山の別院となり、一時その名を轟かした。シラヤマジシヨウゴウコウ 白山寺莊嚴講